



今、なぜ中核病院が必要なのか

将来の萩の医療を考えるシンポジウム開催

～中核病院づくりに向けて～

市では、将来にわたり市民が安心して医療を受けられるよう、中核病院づくりについて検討を進めています。

そこで、病院統合により、医療従事者の確保や病院の経営に成果を上げている事例を学び、萩医療圏における中核病院のあり方について理解を深めるため、シンポジウムを開催します。



↑市HP

- 日時 9月12日(土) 16:00～17:40
- 場所 総合福祉センター 多目的ホール

○基調講演 (40分)

- 演題：「地域における中核病院が果たす役割～山形県・酒田市病院機構の事例から学ぶ 設立の経緯とその後の経過、今後の課題～」
- 講師：栗谷 義樹 (地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構理事長)



講師紹介 くりや よしき 栗谷 義樹

1998年に酒田市立酒田病院の病院長に就任し、経営再建を図る。2008年、山形県立日本海病院との統合再編により設立された地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の理事長に就任し、現在に至る。

○パネルディスカッション (50分)

- テーマ 「中核病院の望ましい姿とは」
- パネリスト：栗谷義樹、綿貫篤志 (萩市医師会長)、米澤文雄 (萩市民病院長)、亀田秀樹 (都志見病院長)
- コーディネーター：藤道健二 (萩市長)
- 入場料 無料
- 定員 120人 (事前申込制)
- 申込方法 9月8日(木)までに、中核病院形成推進室へ電話・FAX・メールのいずれかで氏名・住所または所属団体・電話番号を連絡
- 問 中核病院形成推進室 ☎ 21-3120 FAX25-1520
メール tyuukaku@city.hagi.lg.jp

◎地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構

2008年に当時の山形県立日本海病院と酒田市立酒田病院が統合再編し、発足。統合後、医療機能の集約等を行い、黒字化に成功。今も良好な運営状態を持続されており、全国の病院統合モデルと評されている。

「中核病院なんでもトーク」での主なご意見 (7月開催分)

- ・中核病院は必要。市民の命に関わることであり、例え不採算であっても、萩の医療を守ってほしい。
- ・萩で必要な医療が安心して受けられるよう、医療体制を充実させてほしい。手術や治療のために市外の病院を受診しており、患者の負担が大きい。
- ・医療が充実していれば、多くの人が安心して暮らせ、まちおこしにつながる。

【お知らせ】地域や団体の集まりなどで、中核病院づくりについて説明し、意見を伺う「中核病院なんでもトーク」を行っています。ご要望がありましたら、中核病院形成推進室までお申し込みください。

